

編集部＝竹中光子、中務佐代子、上溝敏子、飯田憲三 knziid@gmail.com 090-6665-3750

## トピックス できごとやニュース

今号は4頁

○2020年度通常総会：6月6日ファインプラザで開催されました。議案は原案通り承認されました。

○6月理事会開催：先月はコロナで休会だった理事会が久しぶりに開催されました。（6日）

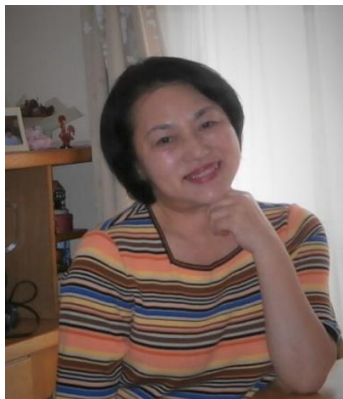
通常の2倍の広さの会議室を利用。席は間隔をあげ、窓やドアは解放したまま、マスク利用など感染予防を気遣いながら、開催しました。

会場入口では、一人ひとり検温の上、連絡先を記帳して入場が許される厳戒ぶりでした。

## 十人十色ひろば

今回は15期講座担当理事の竹中さん

竹中光子さん 理事（7期生） 講座・新規受講生募集担当



地域紙の募集記事の“自然”に惹かれて入会、自然の間口の広さに**好奇心は満開**。ただ出席を重ねても「門前の小僧」のようにはいかず、**新しい知識は頭に中々入らない**、やっと入れば我が満杯状態の脳は溢れた知識を弾き出す有様です。それでも、楽しい仲間と囲まれシニアライフを満喫しています。15期生の皆さまの自然への好奇心のお手伝いが出来れば嬉しいです。よろしくお願いします。

編集部

いつも笑い声が絶えず「肝っ玉母さん」タイプ？に見えます。加えて細やかな心配りや丁寧な仕事振りでとても頼りになる方。

## しぜん訪ねて1

アジサイの季節に訪ねたい河合寺

TMさんのレポート

### 紫陽花の寺、河合寺

今年もそろそろ梅雨入りしそうな気配であるが、**紫陽花にはやはり雨がよく似合う**。本誌第3号でも紹介されているが河内長野では府営長野公園（河合寺地区）のアジサイが有名だ。「奥河内あじさい公園」との愛称もあるが、「**河合寺の紫陽花**」と呼ぶのがしっくりくる。河内長野駅から歩いて15分程のところにある。

河合寺は643年蘇我入鹿の創建と伝わり、平安時代中頃には24坊もの塔頭を有する河南3名刹（観心寺、金剛寺、河合寺）の一つであったという。

勅願寺で南朝ゆかりの寺でもある。現在は**真言宗御室派の寺院**でご本尊の千手観音菩薩をはじめ3躯の重要文化財が安置されている。だが境内は非公開のため残念ながら拝観はかなわない。

さて、あじさい園は寺院右横の園路を少しあがったところにある。遊歩道に入ると山肌一帯に5000本もの紫陽花が梅雨の時期を鮮やかに彩っている。



河合寺



河合寺のアジサイ

**紫陽花の色は土壌の酸性度により青から赤まで変化する**といわれるが、そのグラデーションも美しい。また園内は桜の名所で「**大阪みどりの百選**」に選ばれていてこの時期新緑はとても清々しい。

河合寺からの帰りは隣接する長野公園（長野地区）のあじさい園に立ち寄り、アジサイのはしごをするのもいい。もちろん密には十分に留意して！

（TM）

私の失敗談です。もともと大汗かきなので、高を括っていました。

6月2日、堺自然ふれあいの森の樹林管理活動に参加。3か月ぶりで心ウキウキ。しかし、アカマツ再生区の下草刈りは日光がまともに当たる斜面で、瞬く間に汗ぐっしょり。今年初めての大汗で、その塩辛いこと甚だしい。水分補給はしたが、用意された飴を迷った末、塩ではなく甘いレモン味を選択。約2時間余の作業は無事に終えた。衣類は恥ずかしい位びしょ濡れ、足はこむら返りをし始め、せっかく作った弁当も食べず大急ぎで退散。

帰宅後、水分・塩分を補給し、芍薬甘草湯(シャクヤクカンゾウトウ)を2回も飲み、何とか収まった。

発汗による脱水が血液成分のバランスを崩し、筋肉を過剰収縮させるという知識は知っていたが、大汗かきの私は『いつものことだから』と甘く見ていたことを思い知らされた出来事だった。

里山ではホトトギスが鳴き、ササユリがきれいに咲いていましたよ。

### 編集部

自然カレッジでは講座会場として「堺自然ふれあいの森」を利用させていただいています。

この森ではNPO法人「いっちゃんクラブ」の皆様が管理活動をされています。

「いっちゃん」とは堺市南区エリアでのシリブカガシの俗称との由ですが、お陰で楽しく利用できています。 いっちゃんの皆様有難うございます！

岡本さん、失敗談を皆さんに語れるって素晴らしいですね。



堺自然ふれあいの森  
ササユリ

### 野鳥このごろ

長年野鳥観察を続けるMKさんからのご便り

今回は「憧れの野鳥」です



アカショウビン



ヤマセミ

野鳥好きにとり、憧れの鳥はアカショウビン、ヤマセミ、ヤツガシラでしょうか。どの鳥も大阪で出会うことは稀ですが、一度見れば間違える事の無いほどインパクトの強い色姿形をしています。

アカショウビンは東南アジアから繁殖のため日本のブナ林等に渡ってくる夏鳥で、嘴から脚先まで全身真っ赤なカワセミの仲間、「キョロロロー・・・」と森中に響く声で囀ります。

ヤマセミは留鳥ですが夏は山地の溪流に生息し冬は平地の河川にも下りてきます。上面は黒と白の鹿の子模様に、頭は冠羽状で鳩位の大きさですから、遠くからでもよく目立ちます。

ヤツガシラは東南アジアからシベリア方面へ春と秋に日本を通過する旅鳥ですが、日本への飛来は少ないです。肩胸から上が淡橙褐色で派手な冠羽をもっています。



ヤツガシラ

そのヤツガシラがこのコロナ騒ぎの3月下旬に8日間も大阪城公園にカメラマン150人も連れて滞在していたそうです。まさしく大スター！  
また5月の中旬には同公園で、今度はアカショウビンが現れたとの情報。  
ヤマセミも府内で過去何度も観察されてはいますが、府外の近い所では宝塚の武田尾や奈良の榛原まで行けば叶うかもしれません。

6月に入り、里山の作業小屋の軒先の温度計が30℃を指す日が出てきました。いよいよ夏です。

とは言え、梅雨前の乾燥した空気で、軒先を渡る風は心地よく、休憩中は暑さも忘れます。

ミカン山は新芽の緑も濃くなりましたが、やっぱり今年は花の付き方が少ないようです。一本一本の木に肥料をやりながら「美味しいミカンを実らせて下さいね」と話しかけました。

畑には夏野菜の苗を色々と植えました。上手く育てて沢山収穫できることを期待しています。

今回は、草刈作業の合間に観察できる、美しい植物を少し大き目の写真で紹介します。



楚々として気品のあるササユリ  
(里山のササユリ)



紫色が美しいウツボグサ



## 野の花このごろ

今回は庭作りの悩みの種・雑草の代表でカタバミ登場です



カタバミ

この季節になると、庭の雑草も急に成長し始め、ちょっと目を離すと庭中雑草に被われることになります。中でも厄介なのがカタバミです。抜くと茎で切れてしまい、根から掘り起こしても完全に根を除去することは難しいようで、しばらくすると又生えてきます。雑草の多くは在来種より帰化種の方が勢力の強いものが多いですが、カタバミは負けていません。

似たような黄色の花を付けるカタバミの帰化種にオッタチカタバミがありますが、これは環境条件の悪いところに多く見られ、簡単に根ごと引き抜くことが出来ます。



イモカタバミ  
(薬が黄色)

帰化種には他に紫色のイモカタバミやムラサキカタバミがあります。イモカタバミは根が塊茎で雄蕊の薬は黄色、ムラサキカタバミは鱗茎で薬は白色が見分けのポイントですが、両者とも薬があっても結実はなく種が出来ません。

よって人為的や地下の拡がり以外に増えることは無く、余り心配は無いようです。



オッタチカタバミ  
(周りの丈に負けないよう30cm程)



ムラサキカタバミ  
(薬が白色)

ではどうして植えてもいないのに庭に生えているのか・・・不思議です。かつては観賞用として持ち込まれたという両カタバミ、庭の邪魔にならなくともないですが・・・ (MK)

近所にとっても草花の好きな奥さんがおられる。庭をいつもきれいに手入れして、四季の花を咲かせている。今、その庭は黄金色。勲章のような形をした黄色い花が一面満開。風に揺れ、初夏の風情を醸し出している。前を通りかかる人たちも見入って「まあ、きれい」と歓声。奥さんにはこやかで、満足そうである。



オオキンケイギク

それに冷水を浴びせるつもりはないが、本当はこう忠告してあげたい。「奥さん、あなたは警察に調べられて、3年以下の懲役か、300万円以下の罰金ですよ」。しかし、その満ち足りた笑顔を見ていると、とても声を掛けられない。

犯人はそのきれいな花、**オオキンケイギク**(大金鶏菊)である。北アメリカ原産のこの花は、外来生物法で特定外来生物に指定されており、栽培や運搬、販売、野外に放つことなどが厳しく禁止されているのだ。違反すると、上記に書いた通りである。でも、これほど美しく、今や全国の公園や花壇、道端、河川敷、畑などに広く見られるのに、なぜ禁止植物になったのだろうか。

この花が日本に入ってきたのは、明治の中頃。どこでも育つので緑化などに使われ、特に鮮やかな黄色とあって道端の鑑賞用にとっても好まれたという。しかし、在来の植物へ悪影響を及ぼす害が指摘され、次第に「悪者」に。その結果、いまでは栽培禁止になっているのだ。「かわいい、かわいい」と最初は可愛がって、あとで飽きてしまって「ポイ捨て」するのは、どこかの「ドンファン」のようで、良くない。とはいえ、害が出るのなら、規制は仕方がないか。

環境省や各自治体もホームページなどで駆除を呼び掛けており、例えば北九州市のホームページは「**きれいな花だからといってご自宅のお庭や花壇に植えては絶対にいけません**」と警告、罰則まで載せている。

特定外来生物に指定はされていないものの、この花と同様に全国にまん延し、特に悪影響を及ぼすのではと筆者が心配しているのが、**ヒメツルソバ**(姫蔓蕎麦)と**ナガミヒナゲシ**(長実雛芥子)である。

ヒマラヤ原産の前者はロックガーデン用に明治に導入。小さい花が球状に集まった金平糖のような形をしており、実に可憐。真夏に花は途絶えるものの、花期は5月から秋までと、とても長い。皆さんも見たことがあると思われるが、**葉っぱにV字形の斑紋がある**のが特徴だ。空き地や道端、石垣などに毎年どんどん広がり、雑草化している。

地中海沿岸が原産の后者は、筆者の畑でも先日、両手に抱えるほど引き抜いた。薄い紅色のきれいな花を付けて、毎年、量が増えている。花の後に名前のもととなっている長いカプセル状の実を付ける。1本に実が100個近く生り、1個の実に1600粒ができるので、1本16万粒の種ができる勘定。驚異的な増殖の秘密はそこにあるようだ。

昨秋、ある句会でこんな句を出した。「**秋耕や引く草なべて外来種**」。会員の互選ではほとんど票は入らなかったが、先生は佳作に選んでくださった。それほど、私たちは外来種に包囲されているのである。

ここまで書いてきて、ハッと気づいた。我が家の庭に、中南米原産の**ランタナ**が咲き誇っている。調べてみると、国内の禁止植物ではないが、国際自然保護連合の「**世界の侵略的外来種ワースト100**」に入っているではないか。ギャフンである。(渡口行雄)



ヒメツルソバ



ナガミヒナゲシ

渡口様 6 回に及ぶ楽しいエッセイどうも有難うございました！ (編集部)